



2022年度一般入試動向

2021年度入試は、新型コロナウイルスの影響下で実施されたことや、入試改革（高大接続改革）の中でも大きなものである大学入学共通テスト実施元年ということもあって、例年にないものとなりました。では2022年度入試はどうなるのでしょうか。

まず、共通テスト導入の影響を考える必要があります。2020、2021年度入試では、共通テストによってどうなるかわからない受験生や家庭がリスクの高いチャレンジを避けたことから、浪人生が減少したのです。2022年度入試は浪人生が少ない中で行われるということを念頭に入れる必要があります。もう一つ、「元年の問題は易しい」というものがあります。裏を返せば、2年目は難しくなるということでもあります。これについては大手の受験情報サイトをいくつか見ても、異口同音に「難しくなる」ということが書かれています。前回の問題を見て、同じ難度だとは考えない方がいいでしょう。また、新傾向についてはどうでしょうか。国語に関してはいろいろ言われています。共通テストの問題がセンター試験とあまり変わり映えしなかったこともあり、2年目では新傾向の問題を入れてくるのではないかと予想するところもありますが、それならば1年目から新傾向を入れてきててもよさそうなものなので、何とも言えないところではあります。英語はリーディングとリスニングを100点満点で分けた初年度から大きく変わることは考えにくいと言えます。いずれにしても、難度は上がると思われるかもしれませんが、出題傾向に大きく手を入れてくることは予想しにくい、というあたりに落ち着くのではないのでしょうか。

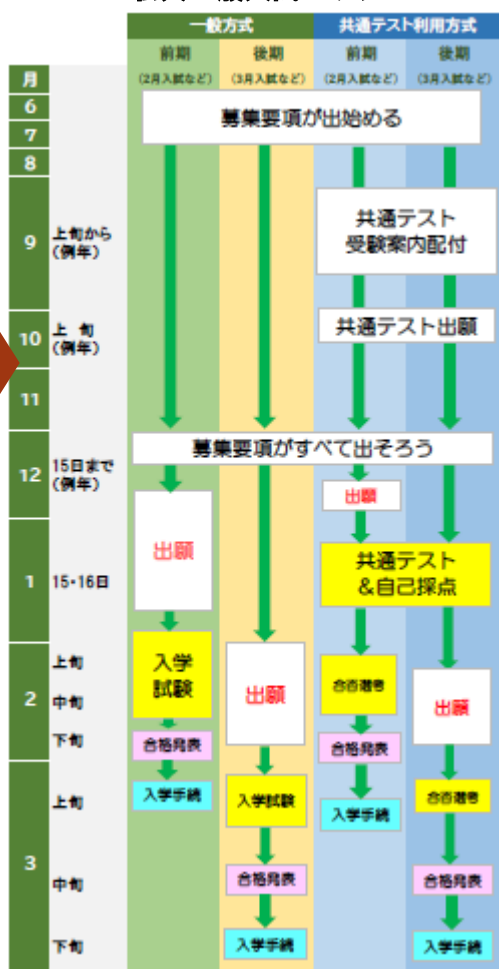
私大の方は、2021年度入試ではコロナ前と比較して各大学で合格者数が増えました（これには理由があるのですが、ここでは控えます）。この傾向は2022年度入試でも続く可能性があると考えられます。また、私大上位校（早稲田、上智、青山）で大きな入試改革が行われました。なぜここで大きな入試改革を行ってきたのかは紙面の都合上割愛しますが、これによって生じた影響は、2022年度の私大入試にも同様に残ると考えられます。

分野別にみると、2021年度はコロナ禍の影響で医療系は敬遠されると思われていたものが堅調を維持しました。これは2022年度もそのまま続くと考えた方がよさそうです。一方、すぐに留学できないなどの影響からか、外国語、国際系は人気は落ちました。リスクはあるかもしれませんが、コロナの後を見据えてそちらを狙うという受験生も少なからず存在します。今だけを考えて志望分野を変えるのは得策ではないということでしょうか。

全国的な動向を見ると、チャレンジする受験生が増えているようです。またコロナ対策が進んできたこともあって、大学入試の環境が2021年度に比べて整ってきていることもありますので、そうしたことも受験生を後押ししているのかもしれませんが、もちろん、この後の受験期に感染拡大が起こらないことを祈るばかりですが……。



私大一般入試スケジュール



大学を知る

「大学を知る」の第4回は、武蔵野市にある日本獣医生命科学大学 応用生命科学部食品科学科の奈良井先生にお話を伺いました。

——日本獣医生命科学大学について教えてください。

本学は1881年に日本初の私立獣医学校として誕生し、1949年に日本獣医畜産大学、2006年に現校名へ変わりましたが140年の伝統があります。現在は獣医学部（獣医師を育成する獣医学科と愛玩動物看護師やペット栄養管理士を目指す獣医保健看護学科で構成）と応用生命科学部（産業動物の育種・繁殖・飼育の分野を担う動物科学科と動物・農産資源から得られる人間の食料を有効活用する分野を担う食品科学科で構成）から成る大学です。

——御校の教育の特色と大学の雰囲気を教えてください。

「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」を教育理念とし、いのちと向き合う専門知識や技術を習得する講義と実習を重視しています。2学部4学科のコンパクトな大学で、学生に対する教員数が多いため、教員と学生との距離が近く、学生はきめ細やかな指導やサポートを受けられる雰囲気です。

——コロナ禍での対応にご苦労があったかと思いますが、御校のコロナ対応はどのように行われているのでしょうか。

実習を重視しているがゆえに、コロナ禍の最初は本当に大変でした。技術習得をおこなう実習は遠隔で、というわけにはいきません。そこで、分散実施計画を立てたり予復習動画を新たに作成する等の対応により、かなり早い時期に実習を再開しました。講義は対面と遠隔がおおよそ半々で、皆が感染防止対策には注意を払いながら過ごしています。

——ところで、先生のご専門をお伺いしてもよろしいでしょうか。

私の専門は食品成分化学（食品成分化学は食品のおいしさや栄養、健康効果に及ぼす成分の特定、分析と加工）、食品酵素学（食品内外由来の酵素による食品成分の変化の解析やその制御）、食品機能学（健康維持・増進効果を有する食品成分の作用メカニズムと有効活用についての解析）です。現在、主に対象としている食品は青果物（野菜・果物）と茶飲料です。動物の印象が強い大学の中では奇妙に見えるかもしれませんが、動物の飼料としても植物資源は不可欠で、SDGsの観点からも我々人間の食を支える植物資源は注目されています。植物にしかない特性を無駄なく上手に活用するための方策を、科学的根拠を揃えて提案していきたいと考えています。



写真上から、キャンパス中庭の風景、獣医医療センターでの実習、分子生物学の実習



奈良井朝子先生

——私たちが生徒を指導する上で食品科学と栄養学の違いに困ることがあるのですが、その違いを教えてくださいませんか。

食品科学について高校訪問で説明していると、「大学で食品を学ぶ」イコール「管理栄養士を目指す」と考えている方に時々出会います。確かに管理栄養士の資格が取得できる類似名称の学科は他大学にありますが、食品科学という学問は栄養士の学びも含めたもっと広い分野です。

管理栄養士を目指す場合は、食品科学に含まれる食品学、栄養学、調理学のほか、医学的な知識も多く学びます。年齢や健康状態に応じた栄養指導をおこなう、病院や学校、保育園の厨房で調理できる献立の作成をおこなうといった能力が必要だからです。

一方、食品メーカーが製造する加工食品やスーパーのお惣菜はどうでしょう？年中、同品質の商品を提供するために原材料を調達し、衛生管理が行き届いた場所で大量生産し、消費者の手に届くまで適切な条件で流通・保存されています。そこでは、様々な食材の加工・保存工程で生じる成分変化を知り、品質に関わる主要成分を分析して（有害な微生物や成分の検査も含まれます）、品質を管理する技術が求められます。さらに、様々なメーカーでは健康寿命の延伸につながる疾病予防効果のある食品、あるいは災害時の心的ストレスを軽減する非常食など、消費者や社会のニーズに応える商品の開発をおこなっています。このような食品の加工・保存の技術革新に欠かせない学びの領域を食品科学では扱います（イラスト参照）。そのため、本学食品科学科の卒業生のほとんどは食品関連産業に就職し活躍しています。

——最後に、本校の生徒へのメッセージをお願いします。

本学食品科学科は、教育研究の成果を実際のものづくりに活かす活動もおこなっています（オリジナル商品の写真：写真左から、発酵バター入りコーンビーフ、特殊な技術で殺菌した日本酒、世界初の麴チーズ）。食べる、つくる、研究が好きな方、ぜひ、武蔵境キャンパスでお会いしましょう！

◆加工食品製造の現場

◆安全衛生管理

- ・有害成分の生体への影響
- ・検査法、分析技術
- ・品質保証

◆研究開発

- ・商品開発にむけた消費者ニーズの調査
- ・栄養成分、保健機能成分の生体への影響
- ・おいしさ、物性、品質の改善

◆産業創出

- ・製造加工・調理技術
- ・食材の安定供給・有効活用



食品科学科の学びは、キッチンレベルの栄養・調理分野に加えて加工食品製造分野に及ぶ。加工食品は食提供者から消費者までの距離が遠く、時間が長くなるため、安全衛生と品質保証の重要性が高い。



プロジェクター画面に映し出された資料映像を各教室の電子黒板（あるいは生徒個人のiPad）に配信するという形式をとりました。

中央大学は創立135年の名門であり、文・理両学部を設置している総合大学です。講演内容は、大学の理念や伝統、各界で活躍する著名な卒業生やキャンパスの紹介と多岐に渡りました。俗に云う「キャンパスライフ」に憧れを抱きませんでしたか？ 本校を巣立った先輩たちも、多くはこのように機会に抱いた憧れを、その努力の原動力として成功を収めたのです。また、学部の特性に合わせて設計された各キャンパス、充実した研究設備、難関資格取得試験の合格実績を裏付けるキャリアサポート、等々、まさしく中央大学の魅力を見せつけられましたが、少し見方を変えると、「大学生が4年間どのように生活して、どのように自分を成長させて、どのように夢をつかむのか」が、最も端的に表れた話でした。イメージの鮮明化も、皆さんが今後の生活をより有意義なものとするために大いに役立つのですよ。

今回の「秋の進路研究会」を一つの材料に、自分の進路について深く考え、高校での諸活動を一層充実させてくれることを願っています。（学習進学指導部・吉田）

トピックス

勝負筆記具はある？

3年生は現在志望理由書などを書くのに忙しい人がたくさんいますが、みなさんは「勝負筆記具」を持っていますか？ 就職活動でもエントリーシートというものを書きますが、その際もやはり「書きやすさ」だけでなく、「験を担ぐ」意味でもそれなりの筆記具を使う人が多いようです。また不動産取引の重要書類も決して100円ボールペンは使わないのだそうですが、さて、みなさんは自分の重要な進路を決める書類、何で書きますか？

一般入試のオンライン入試？

とある大学で、一般入試にオンライン方式を取り入れたところがあります（[「在宅CBT」というのだそうです）。コロナ禍のために導入されたものだと思いますが、いよいよそこまで来たか、という感じですね。ところで、アメリカの司法試験はオンライン試験だそうです。「オンライン試験」と聞くといろいろとその公平性などについても考えてしまいがちですが、ひょっとすると日本が後れを取っているだけなのかもしれません。もっとも、公平性については試験のことだけを考えるわけにはいかないかもしれません。そもそもアメリカの大学の定期試験では、なんと「試験監督がない」のだそうですから……。



日本人の英語の発音はとかくいろいろと言われています。日本語訛、つまりカタカナ式発音の英語は“Jangulish”と言われて悪く言われることもあるそうです。では日本人は昔から英語の発音がそうだったのでしょうか。

明治時代からしばらくの間日本人はアメリカ人のことを「メリケンさん」と言っていたわけですが、“American”の“A”がそもそも弱音であるためにあまり聞こえず、その結果「メリケン」（「一カン」も「一ケン」というのがミソですけれど）になったわけですね。でもこの方が「アメリカン」というよりも実際の発音に近いわけですね。気になってちょっと調べてみたら、有名なジョン万次郎が日本人に英語を教える際にカタカナにしたのがカタカナ英語の始まりのようなのですが、明治時代のカタカナの方が実際の英語の発音に近くて驚きました。例えば“Chicken”は「チッキン」、「water」は「ワラ」です。どうせカタカナにするならリアルさを追求すべきなのかもしれません。とはいえ、“What time is it now?”を「ホッタイモイジルナ（掘った芋いじるな）」としたのもジョン万次郎だという俗説もありますが、これはちょっとやりすぎのような気も……。

1年生対象秋の進路研究会・報告

本校では例年1学期末に、全学年を対象として「大学入試相談会」を実施していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を予防する観点で開催の見送りが続いています。各大学のオープンキャンパスや説明会も多くは開催されず、全国の高校生が、直接に情報を収集する機会を得られないことに苦慮していることなのでしょう。そこで、まだ進学に関連する知識に乏しい高校1年生が、少しでも進路学習の参考になる話題に触れる場を設けるため、学習・進学指導部が企画した進路学習行事が「1年生対象/秋の進路研究会」でした。趣旨に賛同してくださったのは私達の雄、中央大学です。

講師を務めてくださったのは中央大学入学センター事務部入試課の神田航先生。小教室を会場に、代表生徒6名を前にした講演をお願いしました。その様子を校内テレビ放送で中継し、同時に、会場のプ

